

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.92

配信日：2025 年 8 月 4 日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

北信ローカル 記事紹介

“クマに対する防御姿勢は有効か？”

相談役・理事 北村 豊 先生

当会の相談役・理事 北村豊先生からご提供いただいた記事をご紹介します。

記事の内容につきましては、別紙※(Email の場合：別添)(Fax の場合：本状含め 2 枚目)の通りでございます。

※ 別紙 出展元：「北信ローカル」 2025 年(令和 7 年)7 月 25 日 発行

事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただきます(施設長より)。従来は、歯科・医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員・関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただけると幸いです。ご検討の程、何卒宜しく願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合もございます。予めご了承ください。

〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F

一般社団法人東京形成歯科研究会 事務局

Email: info@tpdimplant.com

TEL:03-3919-5111/FAX:03-3919-5114

クマに対する 防御姿勢は有効か？

投稿

信州口腔外科インプラントセンター所長 北村 豊

6月30日まで「ツキノワグマ出没注意報」が長野地域に発出されていたのを知っておられたでしょうか？

「ツキノワグマ出没注意報」が発出されているので、気を付けていただきたい。

私も、2008年6月ネマガリタケを採取しに行っていた男性が、子連れの母熊による攻撃により、下顎骨折を来した症例で、総合病院で治療を受けたにもかかわらず骨癒合不全により偽関節を来した症例の再治療を依頼されて、下肢脛骨より骨髓海綿骨を採取・移植して、事なきを得た事故症例を経験している。

そのような経験もあることから、クマの外傷症例の受傷部位や障害の程度には、かねてから関心が高かった私ではあったが、インターネットでクマによる外傷の関連記事や論文を検索中に、興味のある大学医学部を中心としたグループの研究のプレスリリースを見つけた。本日

6月30日まで「ツキノワグマ出没注意報」が長野地域に発出されていたのを知っておられたでしょうか？

「ツキノワグマ出没注意報」が発出されているので、気を付けていただきたい。

は、その研究の概要を簡単に紹介したいと思う。

プレスリリースは、本年の6月12日に発表されたもので、秋田大学整形外科学講座の医師たちと秋田県のツキノワグマ被害対策支援センターとの共同研究によって得られた成果である。

研究の背景には、2023年度に全国で発生したクマによる人身被害は198件(219人、うち死亡6人)で、統計が残っている2006年以降で過去最多を記録したが、中でも東北地方、とくに秋田県では被害が深刻で、県が把握しただけでも70人の被害があり、過去最多となっている。クマと至近距離で遭遇した際には、顔を伏せて「うつ伏せ」になる防御姿勢をとることが勧められている。それは、重症となりやすい顔面、頭頸部、体幹部(とくに腹側)への負傷を避けることが重要とされているが、うつ伏せの防御姿勢について解析された報告はこれまでになかった。そこで今回、2023年度に秋田県内で発生したクマ外傷症例を対象に、受傷部位や障害の程度を分析し「うつ伏せの防御姿勢の有効性と病院受診後の経過の追跡調

また、北アルプス地域における6月8日(日)から6月14日(土)までの里地でのツキノワグマの目撃件数が前週の1.5倍以上と増加しており、クマの移動が活発になっていることによる人身被害を回避するために、6月19日(木)より7月31日(木)まで

「ツキノワグマ出没注意報」が発出されているので、気を付けていただきたい。

は、その研究の概要を簡単に紹介したいと思う。

プレスリリースは、本年の6月12日に発表されたもので、秋田大学整形外科学講座の医師たちと秋田県のツキノワグマ被害対策支援センターとの共同研究によって得られた成果である。

研究の背景には、2023年度に全国で発生したクマによる人身被害は198件(219人、うち死亡6人)で、統計が残っている2006年以降で過去最多を記録したが、中でも東北地方、とくに秋田県では被害が深刻で、県が把握しただけでも70人の被害があり、過去最多となっている。クマと至近距離で遭遇した際には、顔を伏せて「うつ伏せ」になる防御姿勢をとることが勧められている。それは、重症となりやすい顔面、頭頸部、体幹部(とくに腹側)への負傷を避けることが重要とされているが、うつ伏せの防御姿勢について解析された報告はこれまでになかった。そこで今回、2023年度に秋田県内で発生したクマ外傷症例を対象に、受傷部位や障害の程度を分析し「うつ伏せの防御姿勢の有効性と病院受診後の経過の追跡調



防御姿勢プレスリリースより

査」が実施された。

調査結果によれば、2023年度にクマによる被害を受けたのは70人で、秋田県内14病院を受診しており、重症者(多発外傷、全身麻酔を要した外傷、指や手足の切断)は23人であった。被害者のうち、防御姿勢をとることができたのは7人(全体の10%)で、この7人全員には重症者はいなかった。また受傷場所については「里地」や「居住地」といった他県でも増加しているように人の生活圏内が最多で、全体の60%を占めていたそうである。

秋田大学を中心とした今回の研究では、詳細な調査によって「クマに遭遇した

際」が実施された。

調査結果によれば、2023年度にクマによる被害を受けたのは70人で、秋田県内14病院を受診しており、重症者(多発外傷、全身麻酔を要した外傷、指や手足の切断)は23人であった。被害者のうち、防御姿勢をとることができたのは7人(全体の10%)で、この7人全員には重症者はいなかった。また受傷場所については「里地」や「居住地」といった他県でも増加しているように人の生活圏内が最多で、全体の60%を占めていたそうである。



志賀高原で遭遇した子熊